

第5節

山古志地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 39.8 km² (4.5%)
- ・総人口： 902人 (0.3%)
- ・世帯数： 402世帯 (0.4%)

※()内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で902人。地域別人口増減（2009年～2019年）は、地域全体で20%以上の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 集落が山あいの緩傾斜地や幹線道路沿いに点在しており、地域コミュニティの確保・維持が課題となっています。
- 高齢化率（65歳以上人口割合）は、2020年で約55%です。長岡市全体の高齢化率平均（約31%）より大幅に上回っており、今後も同様の傾向が続く見通しです。

(2) 産業

- 種芋原集落や虫亀集落などでは、東山連峰の傾斜地に棚田や棚池があり、稲作や日本有数の錦鯉の養鯉業を基幹産業としています。

(3) 土地利用

- 診療所や金融機関、体育館をはじめとした公共施設等の都市機能は、支所周辺に比較的まとまって立地しています。
- 集落の大半が土砂災害警戒区域に指定され、土砂災害特別警戒区域が散在しています。

(4) 生活基盤

- 地域の中央部を主要地方道柏崎高浜堀之内線が南北に縦断し、東西には国道291号や352号が配置され、地域住民の日常生活や産業振興を支える重要な路線となっています。また、国道352号のトンネル事業を推進し、地域間のアクセス性、安全性の向上を図っています。
- コミュニティバスの運行により、地域内の生活交通を維持しています。
- 地域内を簡易水道で給水しています。下水道(汚水)は合併浄化槽で処理しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 特産品の米、かぐらなんばんなどの農産物をはじめ、棚田や棚池の風景、千年の歴史を有する国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」、手掘りの道路トンネルとして日本最長の「中山隧道」があります。この他、中越地震の惨状を伝える「木籠集落の水没家屋」や「やまこし復興交流館 おらたる」などがあります。

地域の宝「震災アーカイブス」



甚大な被害を被ってなお、それを乗り越えて復旧・復興へと歩みを続けている山古志を、写真や映像、プロジェクションマッピングなどで紹介。

地域の宝「山古志の棚田・棚池」



特徴ある生活様式の現れである、棚田・棚池の景観。日本農業遺産に認定されており、地域ブランドの確立に向け情報発信に取り組む。

出典：

長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝磨き上げ事業成果報告書(H30年度)ほか

県道栃尾山古志線沿道



牛の角突き



周囲を山で囲まれた山間丘陵地で、地域内のほとんどが傾斜地となっている。山あいの緩傾斜地や幹線道路沿いに集落が点在している。

錦鯉



3 地域の課題と地域づくりの方針

中越地震からの復興を通じた「交流・絆」の継続や市内観光資源との連携により、更なる交流人口の拡大を図るほか、拠点づくりと日常生活に必要な「地域の足」の確保、地域間連絡道路の整備などにより、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 市内観光資源との連携強化による交流人口の拡大

山古志地域には、国指定重要無形民俗文化財の「牛の角突き」や社団法人土木学会の歴史的建造物である「中山隧道」、海外バイヤーが買い付けに訪れる「錦鯉」などの地域資源があり、今後の地域づくりに活かす必要があります。

県外大学との交流機会を活かしながら、インフラツーリズムの展開や市内の観光資源とのネットワーク化を進め、広域観光のルートとしての山古志の魅力を発信するとともに、来訪者に地域の情報を発信し、交流人口の拡大を進めます。

<p>主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内観光資源のネットワーク化と PR ・中山隧道を活用したインフラツーリズムの展開 ・来訪者に対する移動ツールの確保 ・農村景観（棚田・棚池）の保全・活用 など
-------------	--

(2) 日常生活を維持する小さな拠点づくりの検討

地域の半数以上が高齢者であり、また、人口減少の傾向も続く見通しであることから、集落におけるコミュニティの維持は重要な課題となっています。

支所と集落の結びつきを強め、これまでの集落での暮らしを確保します。また、併せて、集落におけるコミュニティを維持する上で必要となる施設や活動、拠点のあり方について検討し、安心して暮らせる環境づくりを進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・支所と集落の結びつきの確保・除雪ボランティアの確保・生活サービス施設の確保の検討・ハザードエリアからの移転支援の検討 など
------	---

(3) 「地域の足」の確保

地域では賄えない、日常生活に必要なサービスを享受するためには、地域での移動環境を確保し、充実させる必要があります。

自動車を運転しない住民や高齢者が、地域で安心して暮らし続けられるように、日常生活に必要な買い物送迎サービスの継続やコミュニティバスの運行支援に取り組みます。併せて、バス停留所(村松、岩間木)や運行ルートの見直しを検討し、より多くの住民の足となるよう利便性の確保を図ります。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・共助による買い物送迎サービスの確保・維持・コミュニティバスの運行維持と運行見直しによる利便性の確保
------	---

(4) 災害時の集落の孤立化を招かないインフラ整備

中越地震では、地域を結ぶ全ての道路が寸断され、集落の孤立化を招き、自衛隊ヘリによる全村避難を余儀なくされました。

集落の大半が土砂災害警戒区域に指定されていることから、土砂災害への対応のほか、冬期間においても安全・安心に暮らせるように、種芋原から太田間における国道 352 号道路整備を促進します。

主な取組	・国道 352 号道路整備の促進(種芋原～太田)
------	--------------------------

地域づくりの方針図 山古志地域

長岡地域
(川東東部)



栃尾地域

長岡地域
(川東南部)

萱峠トンネル

萱峠

猿倉山

ハザードエリア
からの移転の検討

主要地方道栃尾山古志線

主要地方道柏崎
高浜堀之内線

金倉山

三浦湖

主要地方道栃尾山古志線

国道35号

県道水沢新田種芋原線

羊川

ハザードエリア
からの移転の検討

朝日川

山古志小・中学校

主要地方道柏崎高浜堀之内線

魚沼市

山古志支所

小さな拠点づくり
の検討

国道291号

小千谷市

焼山

国道291号

主要地方道柏崎高浜堀之内線

国道291号

中山隧道の修繕

魚沼市

川口地域



凡例

土地利用

- レクリエーション交流地
- 農村集落地
- 農地
- 山林・河川敷
- 行政等施設
- 学校
- 地域界

道路 (現状)

- 主要幹線道路
- 都市内幹線道路
- バスネットワーク
- 河川 (現状)

道路 (計画・整備を検討する路線)

- 主要幹線道路
- 都市内幹線道路
- 河川 (計画・整備を促進)
- 整備・検討を進める箇所